

件名 : WMS で WXT520 後継センサ WXT536 を利用する場合の注意について

恵比寿システム株式会社 発行日 : 2018 年 10 月 12 日

1. 概要

弊社気象観測 Web ログ“WMS”（以降 WMS と呼称）は Vaisala 製ウェザートランスミッター WXT520（以降 WXT520）とのセット運用を対象として設計されております。現在 WXT520 は後継 WXT536 へとモデルチェンジが行われており、本資料は WMS の WXT536 への適用対応、方法について示します。

2. 対応の可否

WMS は WXT536 センサ（WXT520 互換仕様のモデルのみ）利用することは可能ですが、2017 年 8 月以前に販売された WMS で利用するには、周知いただく項目と変更対応が必要です。

3. 変更対応 1 : WXT センサ用の電源容量を増やす

WXT 用電源の容量を増やす必要があります。（センサヒーター機能を使用する場合）
WMS では WXT520 用として DC24V / 1 A 容量の電源（AC アダプタ）を適用しておりましたが、WXT536 を用いる場合は DC24V / 2 A 容量以上の電源（AC アダプタ）を推奨します。
※消費電流は常時約 1 A 消費しませんが、センサリセット時、初期化時、一時的に電流が多く消費されるため容量を増やす必要があります。

4. 変更対応 2 : センサリセット時、平均風速測定が 99.9m/s を表示します。

運用中にセンサ電源の入り切りをした場合、または WMS を再起動する際に、接続されている WXT536 センサに初期化、リセットを行います。その直後、平均風速が安定するまで 99.9m/s を一時的に表示します。
最も単純な対応方法は、無視することです。WXT センサは正常な測定時 60.0m/s までしか出力しないので、99.9m/s が認められた場合は再起動、電圧低下等の状態があった確認用として考える方法です。
もうひとつは、WMS 内部ソフトウェアの有償アップデート（メーカーセンドバック）をご用意しております。

5. 今後

現在販売されております WMS では上記内容は対応済みです。
センサ用電源は 2016 年 7 月以降 DC24V / 2 A または 2.5 A 容量に変更、
平均風速 99.9m/s 表示の排他機能を 2017 年 8 月 2 日以降の出荷で対応しております。
現在併用販売しております。高機能な後継機種 WMS2 では上記内容に対応しており、WXT520 上位互換の WXT536 だけでなく、WXT530 シリーズすべてのセンサに対応しておりますので、今後のシステム更新時、ご検討項目に加えていただければ幸いです。

以上